

臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成7年度(第38回)支部大会号 6.3





第38回東京支部大会プログラム

平成7年6月3日（土） 午後3時
於・浅草ROXニューオータニ

準備

場内指令（段取、渉外）	伊藤 勇五	鶴巻 浩	大橋 貞夫
案内（総合）	沢出 赳允	小林 五月	深見 洋子
受付（総合、来賓）	堀 哲二	斉藤 和男	岡本 和子
（旧中、旧女）	高久 貞夫	佐藤 玲子	鈴木 節子
（高校男子）	青木 猛	松田 茂夫	笠原 静夫
（高校女子）	山西愈佐子	山下由紀子	徳永 道子
（景品受付）	渡辺 八郎	大江 佳一	佐久間英輔
（会報記念品配布）	関 孝世	石黒 四郎	木村 孝子
	渡辺 厚子	八木又一郎	
会場（設営）	鈴木多喜男	広田 達衛	塚田 勝
司会（進行）	田代 信雄	中島 和子	近藤 燦子
開会宣言	武藤 三郎		

第一部

平成6年度経過及び会計報告	事務局長	中村 倉吉
会計監査報告	監事	芳賀 健一
支部長挨拶	支部長	佐伯 益一
来賓紹介	幹事	伊藤 勇五
来賓挨拶	同窓会長	茂野 敏郎
	校長	吉川 益男
合唱	文部省唱歌「ふるさと」	全員
		女子役員リード

第二部

懇親会・乾杯音頭	出席者高齢者の中から
アトラクション	北区新潟県人会おけさ会の皆さん
熱唱	「川」
ジャンケンゲーム『佐伯賞』	沢出 赳允 石黒 四郎
抽選会	篠川 恒夫 佐久間英輔
青春の思い出の歌	「高校三年生」「青い山脈」
校歌・応援歌	全員
手締め	支部長
万歳三唱	校長
閉会挨拶	堀 哲二
敏送	会場出口にて役員全員

☆

（表紙写真について）

一越後山間部における田植え風景一（昭和40年ごろ）

撮影 八木 年秋氏（大正8年生、五泉市在住） 県展無鑑査、二科会写真部新潟支部長代理、五泉文化協会副会長、県展及び二科会展で受賞、入賞数回に及ぶ

平成2年10月、写真集「阿賀野川を彩る」を出版されている。

ごあいさつ

第38回支部大会によせて

東京支部長 佐伯 益一



まず前もって、松高同窓会東京支部に常日頃から弛まぬご支援、ご協力をいただいている皆様に厚く御礼申しあげる。同時に、支部大会も本年度第38回を数え、同窓のお祭りである大会が年を追って盛大になり、会員の数が増加していく事は母校に寄せる同窓各位の熱き想いの然らしむる処と感謝の念を禁じ得ない。

さてこの度、本年4月1日付をもって母校の校長先生が変られた。徳橋校長先生が県立新潟東高校長に転出され、新たに県立長岡向陵高校から吉川益男先生が着任された。3年間ご厚誼をいただいた徳橋先生は津川小学校の同窓ということでもあり特に思い出も多く辛い思いではあるが古来からの「会者定離」の定則により止むを得ないことと思う。

本部会報“松城”に寄せられた先生の格調高い玉章を拝読し、深い感銘を覚え、また転任のご挨拶の中で同窓会に対するご賞辞も頂き、嬉しく読んだのは私一人ではないと思う。今後尚一層のご健勝と新任校におけるご活躍を期待したい。

新任の吉川先生には大会当日、始めてお会いするわけであるが、異動の知らせを聞いた時より私と同じ“益”という字の名前をもつことから非常に親しみを覚えている。“益”という字は、名前にはあまり多くは使われておらず、名前に関して何かウンチクを傾ける機会でもあればとお会いするのを楽しみにしている。二人あわせて“益々”と、われ等が母校及び同窓会の発展に力を出し合い努力してゆきたいと思っている。会報にご挨拶をいただき、厚く御礼申しあげる。

そこで東京支部の現状についてであるが、支部を運営する役員は現在39名（男子25名、女子14名）内、常任幹事は支部長以下12名であり、役員全員が組織委員となり本年度大会出席者150名以上を目標として会員の会員の勧誘に努めている。関東地区には相当数の同窓生が居られる筈。来て頂ければ分かると思う。

今、ここに年会費を頂くようになってから過去8年間の資料がある。隔年ごとに波があるようだが、分かり易くように表にして現わした。ご参考になれば幸いである。

過去8年間の大会出席者調査表

	昭62年度	昭63年度	平元年度	平2年度	平3年度	平4年度	平5年度	平6年度	平均
大会出席者	93人	109	109	94	116	94	122	105	105人
会費納入者	161人	212	183	235	229	214	247	238	215人
寄付納入者	特47+4人	6	特31+22	38	46	63	89	99	56人

※昭和62年度の特47は名簿発行の折、平成元年度の特31は大会準備のための幹事拠出金

※寄付納入者の人数は延人数 来賓は除く

本年3月発行の“松城第12号”に掲載された「新卒業生諸君へ」と題した私の小論であるが後半を要約して紹介してみたい。

『東京支部では、現状のまま推移すれば同窓会は先細りする一方との危惧から、昨年度から組織拡大のため組織委員会を設け、多くの同窓生を会員に勧誘することになった。男女を問わず一人でも多くの人に参加して貰うためである。東京支部では年1回の総会を大会と言う。同窓生のお祭りという意味である。お祭りに参加して旧交を暖め、英気を養うのも決して無駄な事ではない筈。そしてその成果として一泊の懇親旅行会も実施するまでになった。今年も6月3日に支部大会を浅草のホテルで開く。新しい会員の参加を期待し、そのために役員は全力を傾けている。』

私事で恐縮だが、私は今までの人生を“誠実、情熱、勇気”のこの三点を信条として過ごしてきた。そして、それで大きな誤りは無かったと信じている。卒業生諸君の健在を祈ると共に、この言葉を贈りたい』

会報第18号新春号に、今年はいノシシの年、猪突猛進、よいではないか、と書いたが、ちょっと筆がすべりすぎた感がないでもない。“いノシシの年は荒れる”というジンクスがあると前から聞いていたが今年は年頭早々から大変な災害、事件、事故が発生しているのは己にご承知のとおりである。本年後半、何が起こるか予測もできない世相でもある。呉々も周囲、環境に気がつけられ、元気でお過ごし下さいと祈るのみである。

最後になったが最近の統一選挙について敢えて一言言わせていただければ、この稿執筆中、おもてを何台かの選挙街宣車が通っていった。“最後のサイゴのお願いです。何卒ナニトゾ〇〇をよろしく願ひ”と正に連呼の嵐。冗談じゃないッ!! 政治に気持を託し、よろしく頼むと一票を投じるのは我々有権者の側なのである。又マスコミの記事によれば、浮動票の掘り起しとか、何票獲得とか、とよく見受る。これも冗談ではない。一票とは有権者一人の事である。有権者は只の紙切れ一枚ではない筈。どこか狂っている。又参議院の選挙が始まる。



新任のご挨拶

新潟県立村松高等学校校長 吉川 益男



この度、84年の伝統と歴史のある皆様の母校に勤めさせていただきます事となりました。同窓生の方々のご活躍の様子を伺いますと、その重責に身の引き締まる思いであります。

創立80周年記念誌と松城第12号（平成7年3月1日発行）の、同窓会長茂野敏郎氏の「乙亥の春」を拝見いたしますと、歴史の深さと、町の方々が如何に本校を大切に期待してきたかが伺われます。皆様のご期待に応えるべく、前任者に負けないように努力したいと思っております。

さて、同窓の皆様が母校に寄せる熱い思いから、いろいろとご支援ご協力を頂いておりますところですが、同窓会・PTAのご支援により、平成3年度から実施しております進学クラスが、ようやく地域の方々からご理解を頂きまして、本年度の入学生の中には、この進学クラスを目指して受験する生徒が出てくるようになりました。平成6年度の進学者数は、4年制大学現役8名浪人7

名、短大現役18名、高等看護学校2名となり少しずつ上向いてまいりました。職員もこのことに意を強くして、さらに、進路指導の強化を図っておるところであります。ともすると、道を誤りがちな生徒が多いという現状の中で、進路指導をきちんと行うことは、なかなか大変なことではあります。生徒にしっかりとした目標を持たせ、希望を持った日々を送ることができるよう指導してまいりたいと思っております。本年度の入学生から、学年進行で制服が紺のブレザーとネイビーブルーのズボンとスカートになりました。気分一新さらなる発展に向けて頑張りたいと思っております。

6月には、東京支部の総会が行われるとお聞きしておりますが、その折にはお伺いし、皆様のご意見やご希望をお聞きして帰り、教職員打ち揃って取り組んでまいりたいと思っております。

村松高校同窓会東京支部の皆様のみますますのご発表を祈って、新任のご挨拶といたします。

村松高校を離任するに当たって

この度、4月1日付けをもって、県立新潟東高等学校に転出することになりました。

平成4年4月1日に村松高校に着任致しましてから3ヶ年半、大変お世話になり、ありがとうございます。

平成3年の創立80周年記念式典、平成6年1月の被服科の閉科記念式典と、村松高校は大きな節目を経験し、少しずつではありますが変容を遂げてきているように思います。生徒・教職員一体となった指導が実を結びはじめ、部活動においては賞状をいただく部も増え、大学等への進学率も増加していることがそのことをよく物語っているように思います。

この3月に卒業いたしました小林仁先生（松高OB）担任のクラスの生徒は、そのアンケートの中で、松高が良い方向に変化してきており、部活動にも学習にも成果が見え、今後もこの傾向が続くことを願うとする者が75%にも及びましたことは、私が申しあげる以上に説得力のあることであったと喜んでおります。

さて、東京支部大会には3回お招きいただき、その都度、感激を新たにして帰校いたしました。そのことは、折に触れて書きもし、生徒諸君にも伝えもいたしました。

お集まりの同窓諸氏の故郷への深い思い、母校に寄せる暖かなご配慮に加え、代表として参加させていただき

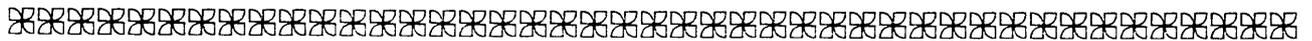
徳橋 時男



ました私をはじめ係の先生方に対するご敬待のようすは、表現し難い程の嬉しさがありました。母校への思いの強さの余り、現役教職員にはとか、囁し、注文をつけることばかりが多い同窓会もあると聞、中において、皆様のお心遣いは誠にありがたく、まごまごとした思いと熱くこみ上げる心とを抱かせていただきました。さすがに伝統校に学ばれた方々の言動には、節度と理解と寛容と暖かい励ましがあるものと感服、たしておりました。

皆様には、本当にお世話になりました。和やかな総会とそれに続く懇親会の賑やかで楽しかったこと、それも毎年盛会を願って趣意を凝らす役員諸氏のご苦心、さりげなく運営なさる方々とそれを盲立たずに支える方々。そこにはまさにすばらしいハーモニーがありました。こんな嬉しくも楽しい会を、私は毎年心待ちに致しておりました。すっかりそれになじんでしまい、こうしてお別れの文章を書かねばならないことは、大変つらいことになりました。しかも充分に意を尽くせないもどかしさを感じており、懇縮致しております。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、佐伯支部長様はじめ役員の皆様、会員の皆様、東京支部の益々のご多幸とご発展を祈念申し上げまして御礼とさせていただきますと共に、離任のご挨拶とさせていただきます。



ありがとうございました

①平成6年度会費納入の方 (其の二)

沢井 昭 (高9) 松田 輝夫 (高6)
以上2名 累計238名 合計714,000円

②平成6年度寄付金納入の方

白倉 清熊 (中27) 10,000円
以上1名 累計99名 合計275,000円

何れも3月31日現在、敬称は略させていただきます。
厚くお礼申し上げます。

平成6年度、東京支部の動き

平成6年

- 4月12日 印刷所へ会報17号原稿送付
- 4月15日 幹事有志、熱海、北里寮にて一泊懇親会、翌日、モア参観、出席9名
- 4月18日 田中角栄元首相追悼会、於赤坂、ニューオータニ、出席7名
- 4月23日 幹事会、於エース高輪、出席32名、支部大会案内状発送作業410通、終了後懇親会
- 5月11日 印刷所より初校受領
- 5月14日 会報17号編集会議、出席5名初校於ツルマキ、午後より池之端文化センターで大会打合、出席9名
- 5月15日 県立安塚高校東京同窓会へ表敬出席、佐伯、鈴木、鶴巻、於新潟県人会館
- 5月16日 印刷所の初校済会報原稿送付
- 5月20日 印刷所より二次校正受領、即日送付
- 5月28日 大会準備打合会、於ツルマキ、出席5名
- 5月31日 会報17号印刷完了
- 6月4日 東京支部大会、於池之端文化センター、出席105名、来賓4名、おけさ会8名、二次会、浅草ミラン
- 6月25日 幹事会、於高輪陽寿院、支部大会反省会、会報発送作業終了後、懇親会、出席19名
- 7月11日 支部幹事 中村雅明氏 (中34回) 死去による通夜 (目黒、安楽寺) 12日告別式、通夜及び告別式に支部より佐伯、中村、武藤、伊藤、芳賀、斉藤、鈴木、沢出、鶴巻、大橋、岡本、鈴木 (節)、小林 一氏各幹事14名出席、支部より献花
- 8月17日 同窓会本部総会、於新滝、支部より佐伯、中村、伊藤、深見、鶴巻、石黒各幹事6名出席、二次会木むら
- 9月4日 幹事有志による一泊の磐越方面、バス旅行会、母校訪問、キリン山温泉、ホテル福泉泊、参加者21名
- 10月1日 編集会議、部会、於ツルマキ、出席7名
- 10月8日 幹事会、高輪陽寿院、出席19名、常任幹事指名、懇親会

平成6年度収支決算書

自 平成6年4月 1日
至 平成7年3月31日

村松高校同窓会東京支部

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
支部会費	714,000	大会経費	954,533
男168名 女70名		払込手数料	10,600
計238名		会議費	174,938
寄付金	275,000	外注印刷費	392,584
延99名		送料通信費	196,601
大会会費	893,000	慶弔費	35,450
男9千円 79名		慶弔1 弔事1	
女7千円 26名		本部総会参加費	80,000
大会祝儀	50,000	雑費	38,287
2件			
預金利息	1,325		
雑収入	20,148		
小計	1,953,473	小計	1,882,993
前期繰越金	355,659	次期繰越金	426,139
合計	2,309,132	合計	2,309,132
次期繰越金内訳		郵便貯金	50,634
		普通預金	308,351
		手持預金	67,154
		計	426,139

上記のとおり報告致します。

平成7年4月15日

事務局 中村倉吉◎
経 理 岡本和子◎

監査報告書

上記の監査報告書は監査の結果適正であると認めます。

平成7年4月15日

監 事 芳賀健一◎
同 塚田 勝◎

- 10月14日 浅草ROXニューオータニ内見会招待に出席、幹事6名
- 10月29日 会報18号編集会議、於ツルマキ、出席5名
- 10月30日 赤山会例会 於市ヶ谷私学会館、出席23名
- 11月7日 印刷所へ会報18号原稿送付
- 11月21日 日本テレビに母校正門及び同窓の故式場隆三郎博士 (中1回卒) の業績放映される。
- 11月28日 印刷所へ初校済原稿送付
- 12月12日 会報18号印刷完了、受領
- 12月17日 幹事会及び望年会、会報発送作業、於真鶴町旅館“いずみ”一泊で出席16名、翌日希望者で横浜市内観光
- 平成7年
- 2月4日 常任幹事会、於ツルマキ、会報19号編集会議、出席6名及び組織委員会について
- 2月11日 常任幹事会、於ツルマキ、組織拡大のための名簿作成、出席5名
- 2月25日 幹事会、午後1時半於ホテルエース高輪、出席26名、支部組織拡大に関する件、及び支部大会開催に関する件、終了後、新年懇親会



お便りの中から

◎ 支部会報を拝受、毎号、表紙写真が素晴らしく、懐かしいのが第一に胸を打つ、毎年二回このような立派な会報を編集される方々のご努力に心から感謝しています。平成七年度も宜しくお願い致します。

(中22回 亀嶋 謙、赤山会々長)

◎ 支部会報を余分にお送りいただきありがとうございました。早速に過日の同級会の幹事四人に感謝の意をこめて送ると同時に、本年の幹事担当である新潟在住の世話役にも送っておきました。東京支部では、支部長を中心に同窓の輪が着実に広まりつつある姿を見て貰いたいという気持ちもございます。大会当日に現実に見てくれるよう、遊びに出かけてくるようにも一筆しておきました。東京在住者が参加してくれることが先決ではありますが、体調不全な者、或いは集いあう事それ自体に抵抗感を抱く者など、やはり辛抱強く接触を続けなければならないようです。そんな事を考えると地方から気軽に出かけてくれることで、大会が少しでも盛り上がりげな夢を持つようになっております。兎に角、一人でも多くの参加者がいるようにと、今から心がけて参りますが結果よりも努力することが私の務めでもあらうと自覚しているつもりです。

(中26 武藤 三郎 支部幹事)

◎ 会報ありがとうございました。なかなか充実した編集で敬服しております。本日、原稿が届きました。佐伯さんが言われるように「松城」は、たしかに本年度卒業の諸君を先ずもって励ますものです。そのため、今回は、わが母校の先輩として式場隆三郎先生(中1回)のこと、杵渕政光先生(中7回)の事をクローズアップして掲載いたしました。又、現在活躍中の自治医大外科教授、笠原小五郎先生(高10回)にもお願いし、素晴らしい内容の一文をいただきました。ヨーロッパの歴史によって生まれた全体の中の個の自覚、これがあって、この上に社会が成り立っている。これに反し我が国は、全体の中の個の歴史がなく、個だけが突出したと云うお話でした。

それから、各支部の交流は大変大切だと考えております。何かよい方法はないものかと思案中です。それには、やはり“松城”のセンターである当方の根本的なものがしっかりしなければと考えております。今後、よろしくご指導をお願いし、東京支部のご発展をお祈り申し上げます。

(中30 村田 英士 松城編集委員)

◎ 過日は、同窓会報をお送りいただき、有難うございました。会長さんのご苦勞と会員の皆様方の望郷の念と、若き日の思い出と、友情の交錯する文章を拝読して、十

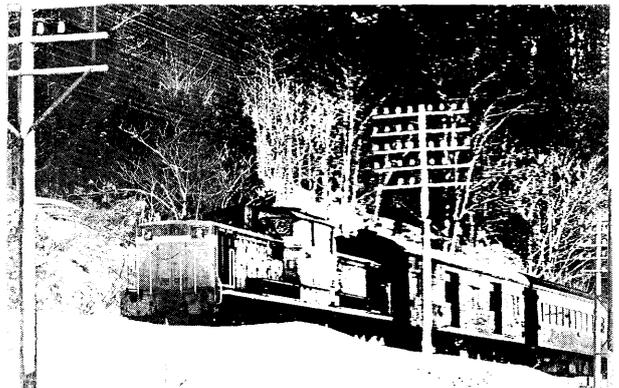
年一日の思いが致します。

「今日も母校をとりまく風景は喧噪な社会とは裏腹に、白雪をいただき清楚な姿で蒲原平野に君臨する白山をはじめ、杉の大木に囲まれ、大伽藍にいにしへの修行僧の姿を偲び、今も多くの信者の参詣で賑わう慈光寺や、汚染度0を誇り、雪融け水を満々と蓄え、急流に岩を嘯み、浅瀬に小石と戯れて、清冽な流れは人の心をも洗う仙見川、今、山も里も人も、白雪に包まれて、清纯無垢の美しい佇いを私達に見せている。

南に下った太陽も北に向かって帰って来る頃、白いベールに覆われた大地も春への身支度を急ぎ、小川の流れる輝きを増す。水辺のセリ草の緑も一段と鮮やかさを加え、公園の桜花も咲き乱れて春を待つ人々の心を踊らせる頃、臥龍が丘は緑に映えて、学び鍛え、優れた人材の新しい門出の季節を迎える。

ご依頼をいただいた、ご希望の写真が見つからず大変申し訳なく思っております。今も関東方面から鉄道マニアの方々が、阿賀野川ライン沿いを走る列車の撮影に多く来ておられます。会報の表紙に田植えの写真を使っただけのこと大変有難く思っています。尚、お送りいたしました写真は、お手元に置いて頂ければ幸いです。益々のお活躍をご期待申し上げます。

(三泉市 八木 年秋)



吹雪の朝、磐越西線をゆくディーゼル列車、一輛目の荷物車が印象的

◎ 支部会報御送付ありがとうございました。記事中計報欄で佐野幸子さんの急逝を知り、九月にはお元気で母校を訪問されたことを思ひ、愕然といたしました。深く、御冥福をお祈り申し上げます。

所で、12月24、25日の新潟日報に県高校陸上十傑が掲載され、男子1名(400M) 女子一名(200M)の松高生の名が出ておりました。酒井、桜井両教諭の指導が実を結びつつあるようです。広報部の皆様によるしくお伝えください。

(校長 徳橋 時男)



◎ (前略)、さてこの度は支部会報、ありがとうございました。早速すみずみまで読ませていただきました。総会時の記事は特に懐かしく拝読させていただきました。いろいろとご配慮頂きありがとうございました。そこで一つびっくりした事がございました。一番最後のページの訃報のところ、佐野幸子様が十月十一日に急逝なさった由、びっくりして何かの間違いではないかと、しばらくボーッとして何か変な気持ちになりました。私が総会にお招きをいただきました折に、お久しぶりにお会いして大変喜んでくださり、いろいろと最後(汽車に乗車するまで)お付き合い下さって、感謝しておりましたのに……そして九月五日、支部の旅行会にも参加しておられ、再会を手をとり合って喜んだものでした。その晩はあまりのショックで床に入ってもなかなかねむれませんでした。そろそろ年賀状を差しあげようと思っておりました矢先、この会報で知ったのです。

あのお元氣な姿が目に見えるようです。何と人の命のはかなさ、悲しくなってしまうですね。これからは、お互いに健康に留意して皆様方の少しでもお役に立てたらと願っております。(後略)

(同窓会本部事務局 伊藤 ヒサ)

◎ (前略)お手紙拝受致しました。正月が終わりましたら、佐野さん宅に伺って校長先生始め伊藤さんの御丁寧なお悔みのお手紙を供えて来ようかと思っております。この様にわざわざコピーして送って下さるのは支部長さんならではの御配慮、まことに感服致しております。友人の一人として厚く御礼申し上げます。

(女26 新保 清子)

◎ 貴翰、有難く拝誦いたしました。先般は支部会報を、今回は松城第12号を恵送いただき感謝いたしております。松城に寄せられた卒業生に贈る言葉としての“誠実、情熱、勇気”のご信条を感動をもって拝読いたしました。村松兵舎、宮門、セイロ池の記事ですが、掲載期日を先念し、黒崎町の新潟日報本社に問い合わせましたところ、平成六年八月七日の記事と判りました。未曾有の阪神大震災で私も及ばずながら町内の役員として、義援金の取りまとめ等で協力させていただきました。漸く庭の片隅の雪も消えて、本格的な春を迎えることができ喜んでおります。毎年今頃になると、「諸子は此処にめでたく卒業証書を手をにせらる。祝すべし、賀すべし」という当時の村松高女の吉田孫作校長の祝辞を思い出します。

(中26 中村 市雅一郎 黒崎町)

◎ 種々、雑多なものを封入いたしました。徒然に御覧下さい。“明治は遠くなりけり”ですが、時に想いを巡らすのも又一興あると思います。父は直接参戦いたしませんで聯隊で兵の育成に当たったと聞いております。その功績が認められての賞状と思料致します。隊長に大分慰留されたそうですが、家が農家でしたので満期除隊したそうです。会報資料送付に寄せて

(中26 福原 平八郎)



『哨舎と兵舎』

松高教諭、江口 昇氏作(高3回卒、同窓会担当)新潟大卒、県美術連盟会員、新日本美術院会員。

ご存知か？村松30聯隊の足跡 !!

この記事は、昨年8月新潟日報紙に特集記事として掲載され、年末に中村市雅一郎氏（中26）より同級の福原平八郎氏に送られ、再コピーの上、送られてきたものである。

かつては、軍都として栄え、今は、文教の町として静かに息づいている母校所在地、村松町にあった旧日本帝国陸軍、村松第30聯隊（戦後は連隊と言われるようになった、以後連隊と記す）について戦後50年を経た今日、案外に知られていないその素顔、過ぎし足跡について再度表現し、往時を偲び、郷土を再認識するのも後世に対する一つの課題ではなからうか。

【記事本文】

無言で見つめた村松兵舎営門

赤れんがの営門と六角の白い哨舎が、夏草のやぶの中にひっそりと立っている、村松町愛宕原にあった旧陸軍村松兵舎跡だ。（中略）

村松兵舎に新発田歩兵第十六連隊で編成された歩兵第三〇連隊が入ったのは、日清戦争が終わって間もない明治三十年、元は茶畑だったという連隊敷地は約十三万平方メートルの兵舎に、練兵場や射撃場などを合わせると三十七万五千平方メートルにも及んだ。

連隊の発足は日露戦争に備えたものであり、明治三十七年の開戦と同時に部隊は大陸へと出動。以後、日本の大陸侵攻が本格化し、太平洋戦争へと戦火が拡大していく中で、村松の駐屯部隊は三〇連隊から新発田第十六連隊の第三大隊（大正十四年）、第一五八連隊（昭和八年）と目まぐるしく交代。太平洋戦争末期の昭和十八年から村松陸軍少年通信兵学校として使われ、二十年の敗戦間際には練兵場の端で飛行場建設も進められていた。練兵場の先の下阿弥陀瀬で生まれ、村松の兵舎を見て育った同町新町の元教員松尾吉信さん（七二※中25回卒）は「村松にいた部隊は、日露戦争から太平洋戦争まで、明治以降の戦争という戦争にはほとんど動員され、日本の戦争とともにあった」と振り返る。

敗戦後、村松兵舎の役割は一変する。当時は食料の生産確保が至上命題。そのため、二十年五月に加茂農林学校から昇格した県立農林専門学校（農専）を村松に移転さ

せることになった。この農専が二十四年に発足した新大農学部の前身となる。二十一年五月（5月8日、1337戸が消失した）には村松大火が起き、旧兵舎は被災者の住宅や焼けた学校の校舎などにも使われた。

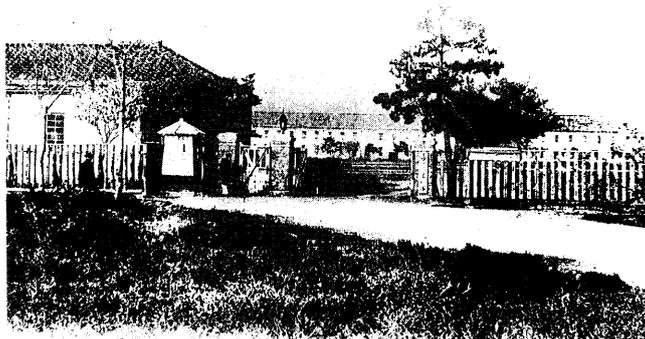
大火直後に移転してきた農専の教職員や学生たちは、まず、くわやスコップだけの手作業で、野芝に覆われた練兵場跡や硬い滑走路の開墾に取り組む。それが現在の新大農学部付属農場の基となった。六十年から同農場で研究と学生の実習教育に当たっている伊藤道秋教授（五三）は「この機会に、食糧難時代に貢献をした農専の伝統を思い起こし、農場の役割を再認識してもらえたらと思う」と話す。旧兵舎が作られてからおよそ百年。戦争と平和の時代をほぼ半世紀、ずっと見つめてきた営門と哨舎は今、私達に何を語りかけているのだろうか。

村松兵舎営門

営門の門札は「歩兵第三十聯隊」と読める。営門を警戒する哨兵の軍服が、明治時代の黒からカーキ色に変っているので、大正のころだろう。写真の元は絵はがき。兵役を終えて除隊する兵士の除隊記念に販売されていたらしい。町郷土資料館が収集したものだ。

哨舎は戦前と同じ場所にあるが、営門は戦後、道路の拡張で前に移されたという。国有地にあるため正式な管理者はいないが、地元の旧軍人組織の郷友会の手で、今も哨舎のペンキ塗りや周囲の草刈りなどが続けられている。旧兵舎は今、日の出町と呼ばれ村松東小学校や住宅団地になっている。

明治30年創設で兵営の周囲は木柵であった。門柱上には三角形のガス灯が付けられている。（明治後期）、昭和12年7月、日支事変が起これ、事変が拡大するに及んで戦傷病者が続出したため、臨時に兵舎を新発田陸軍病院臨時村松分院として使用した。（昭和13年頃撮影）、終戦後の兵営は県立農専、新潟鉄道教習所村松分教場、同村松自動車要員養成所等が入居した。昭和21年には村松小学校が、同22年には愛宕中学校が入居したので、営所通りの町名が学校通りに改名された。（写真は新潟日報事業社、ふるさとの百年、写真集より）





[あしがき]

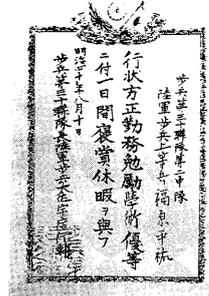
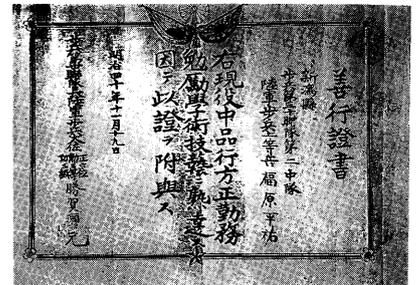
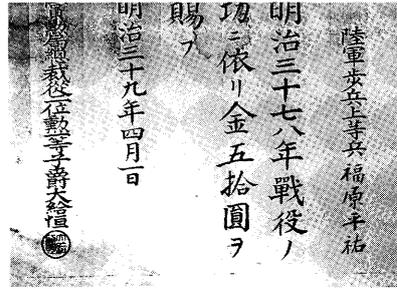
戦後、いち早く連合国軍隊が日本全国に進駐してきたが、新潟県は、新発田、村松、新潟、三条、柏崎、高田、の六地区へ米陸軍が進駐してきた。東京を除く各県の内で六ヶ所というのは数の多い方である。旧日本軍隊の所在地としてか、交通の要所としてか、或いは、ソ連の侵攻を懸念しての事であろうか。新潟市には、米軍指令部、終戦連絡事務局などもおかれた。

戦後五十年と一口で言うが我々の年代としては明治三十七、八年（1904~05）の日露戦争の後、二十年位にして生まれたのであるから日露戦争の方がはるかに近かったのである。時代の流れの速さを感じる。

尚、本稿読後、村松連隊に関する未だ知られざる史実、感想などありましたら是非、お寄せ下さるようお願いしたい。併せて お便りを頂き、この稿をおこす基となった中村、福原両先輩に厚くお礼を申し上げます。

一言、付言させていただけるならば、本当の意味の戦後とは昭和二十六年、サンフランシスコにおける平和条約締結の一年あと、同条約の発効によって日本の主権が回復してからであり、昭和二十年八月十五日は戦闘行為の終了した日と認識している。……しかし、その後に於ても ソ連は……

写真は脱稿後、福原氏から送られてきたもので、御尊父、亡平祐氏の村松連隊時代の褒賞及び当時の軍服の写真である。（向かって右、平祐氏） （佐伯）



シリーズ

大空に散った同窓達（第7回）

一海軍航空機搭乗員となり戦死された
皆川三郎氏と高松正男氏について一

斎藤朝之（中28）

皆川三郎氏（中27）について、平成4年に甲飛8期会事務局の西村友雄氏に照会したところマリアナ方面で戦死、また高松正男氏（中24）については、酒井忠氏（中24）のご調査などによりレンネル島方面で戦死とわかりましたので、以下戦史などを参考に記してみます。

◎皆川三郎氏（中27）

戦死年月日 昭和19年6月16日

場所 マリアナ諸島方面・索敵飛行中

所属 第1航空艦隊・第755航空隊（初代元山航空隊）

機種 一式陸上攻撃機・偵察員

皆川氏は、海軍甲種飛行予科練習生（第8期）に合格し、昭和16年4月1日、土浦航空隊に入隊した。（455名入隊、333名戦没）

「甲飛八期のあゆみ（同八期会発行）」誌によれば、皆川氏は昭和17年7月24日、予科教程を卒業した三重県鈴鹿航空隊へ偵察飛行練習生（第27期生100名）として転勤した。昭和18年4月24日、飛行教程を卒業して第1航空

艦隊に所属する第755航空隊に配属され、マーシャル諸島タロア基地に進出した。さらに大鳥島（ウェーク島）で索敵、哨戒任務に就いた。その後11月のギルバート諸島沖航空戦で消耗した部隊再建のため、12月中旬にテナアン島に転進した。昭和19年2月入院。同年5月31日、6月10日にトラック等の春島基地から索敵任務で発進している、と述べられています。

そして運命の6月16日、マリアナ諸島方面索敵の命により、9時39分一式陸攻2機で春島基地発進、12時30分「エンジン不調引返す」、13時27分「10数隻の敵大部隊発見、13時30分「敵艦上機見ゆ」と次々に打電後消息はなく、遂に未帰還となった。（飛行機戦闘行動調書から要約）

◎高松正男氏（中24）

戦死年月日 昭和18年1月31日

場所 レンネル島沖航空戦（昼間雷撃）

所属 第11航空艦隊・第751航空隊（初代鹿屋航空隊）



機種 一式陸上攻撃機・偵察員

高松氏は、中学卒業後1年経過した昭和15年4月1日に、甲種飛行予科練習生（第6期）として霞ヶ浦航空隊（飛行予科練習部）に入隊した。（267名入隊、220名戦没）高松氏は、中学24回の卒業写真（昭和14年3月）に写っているので、同年4月には甲飛連第4期生として入隊したものだと思い、現在生存の4期生で宮城県松島町在住の佐々木原正夫氏（零戦）に照会したところ、意外にも4期生の名簿には載っていない、また5期生の名簿にもない、6期生（昭和15年4月）霞空飛行予科練習部）であると返信がきた。甲飛6期会事務局の資料により、高松氏の戦死はレンネル島沖航空戦で、昭和18年1月31日と判明した次第であります。

これとは別に、酒井忠氏（中24、陸攻操）のご調査によれば、

防衛庁戦死編「南方方面海軍作戦」（2）からレンネル島沖海戦（昭和18年1画つ29日～30日）で、30日にニューアイルランド島のカビエン基地から751空の西岡一夫少佐（海兵58期）指揮による陸攻隊11期が出撃し、魚雷攻撃で米巡洋艦シカゴ撃沈、駆逐艦1隻大破の戦果を挙げたが、未帰還7機、バラレ島基地に帰還したもの3機、ニュージーランド島のムンダ基地に不時着1機の計4機が帰還した。彼はこの戦闘で被弾戦死したと思われる。

とのことであります。

さて、私は昨年秋頃戦記「甲飛の黎明（甲飛一期会発

行）」を読むうち、そのレンネル島沖海戦に一式陸攻の操縦員として出撃し、生還した甲飛1期生仲田義次氏（山梨県長坂町）を発見し、早速手紙を出して高松氏のことを尋ねてみた。返信内容は次の通り。

高松正男氏について

戦死年月日 昭和18年1月30日

場所 レンネル島沖海戦

所属、機種 751空、一式陸攻偵察員

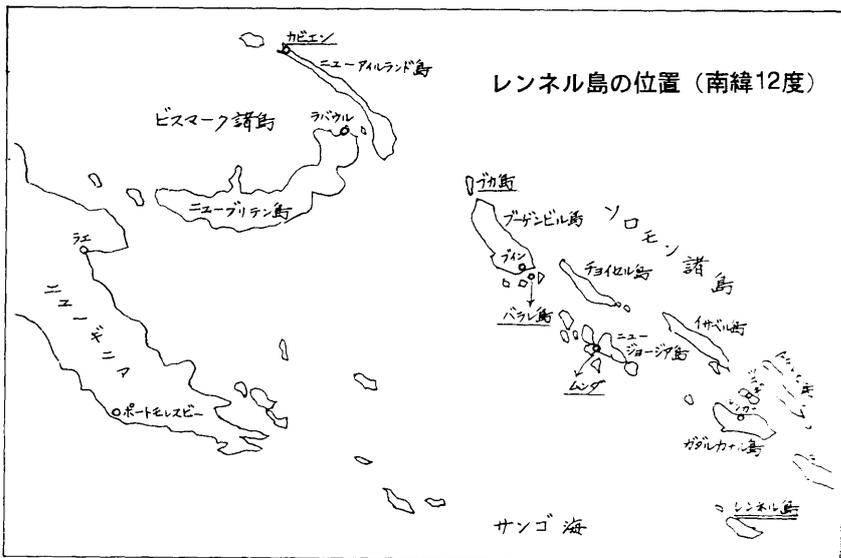
出撃基地 ブーゲンビル島ブカ基地

出撃機数 11機（未帰還7機）

前述のように高松氏の戦死は、1月31日又は30日とはっきりしないが、レンネル島沖海戦は29日と30日に決行されたので、31日戦死とあるのは、30日に帰還した一式陸攻4機の中に高松氏がおられ、おそらく被弾重傷のため翌31日に亡くなられたのではないかと推察する次第であります。（もし30日戦死なら未帰還7機の中に含まれる）

高松氏は、昭和16年9月に予科教程卒業、翌17年8月25日、鈴鹿空における偵察専修の飛練教程を卒業（114名）し、751空に配属された。当時の戦局は、ミッドウェー海戦（昭和17年6月）において主力空母4隻（赤城、加賀、蒼龍、飛龍）を一挙に失い、それまで連戦連勝の日本海軍は米軍に優位を逆転させられ、次第に敗戦へと落ち込んでいく境目のところであった。

国の存亡を双肩に担って米軍と戦い、ついに戦死された皆川氏と高松氏に対し、ここにあらためてご冥福をお祈り申し上げます。



ラバウル上空を飛ぶ一式陸攻



高松 正男氏
(中学5年次)



級友、中野君を見舞う

吉田 公男（中27医学博士）

先日、お蔭様で、中野君のお見舞と一緒にいくことが出来ました。

何と言っても中野君はクラスのホープであっただけでなく、私が東京に出てきてから、貴兄や西山君らと共に私を暖かく迎えてくれ、おかげで同級の連中と会うことが東京での愉しさの一つになりました。

彼が病気になる、是非見舞いにと思っていました、なかなか行けませんでした。

でも、やはり心配する気持ちが強く、貴兄らと一緒にやっと見舞いすることが出来、ほっとしました。

貴兄と追浜で飲んでいた時、何か書けと言われました。私は毎日でなく、時にメモを書いておくことがあります。あの日に書いたメモの不要なところを削除し同封して送ります。

中野君とは昭和24年と思いますが、私の新潟での下宿が附船町にあった頃、ある昼下がり、その近くの路上でばったりと会い、彼の下宿に案内されました。

驚いたことにその下宿は、本町十四番町の遊廓に隣合わせの家で最近までその家もそのようななりわいの家でした。

中野が「多くの男達の古戦場だったんだよ」と言っても、ついこの前までここでひろげられていた男女の絵巻の部屋にしては殺風景な六畳くらいの部屋でした。

彼は戦後の処理をしてから、その頃、新潟で仕事を見つけ、ここから通勤していたようでした。又の再会を約しましたが、新潟ではその後会うことも出来ず、再会は約二十年後の東京でした。

※腰痛はいかがですか。

腰痛は青・壮年期に腰に負担を掛け過ぎた人に多いようです。そのような人は年令の割に背骨の変形がかなりあるようです。

ご存じのように、腰に負担さえかけなければ、どんどん進行することはありません。

予後は悪くはないのですが、痛みには困ったことです。姑息療法しかありません。

2月10日（金）

昨年秋から中野博君が肺炎でまだ病床にあると聞き、西山君と佐伯君にその後の容態について尋ねたところ、一緒に見舞に行こうということになり、午後一時に追浜の駅で落ち合う。

中野君は横浜南共済病院、第一内科に入院している。奥さんが付き添っておられる。

ベッドの上の中野君はさすがにかなり憔悴しているが、凜とした姿はやはり海軍将校である。

我々を見て嬉しそうな顔をする。

気管切開部にレスピレーターが接続されているので声が

出ない。

西山の話では十年近く前の呼吸器疾患の為、肺活量を含め肺能力が可なり落ちていたらしい。最近では僅か百メートル位の山でも上れなかったと言う。

そう言えばその頃、中野は『横浜の呼吸器科で治療を受けている。大部良いが無理は出来ないんだ』と言っていたが、一方、我々の会合には必ず出席し、何くれと世話をしてくれるので、私も呼吸機能がこれほど低下しているとは外観よりは何えなかった。

昨秋、肺炎に罹ったが、常人より容易に呼吸困難に陥り、以後、人工呼吸器に頼らざるを得なくなったと聞いたが、間もなく回復するものばかり思っていた。

然し、今日まで人工呼吸器を止めたのが最高八時間ぐらいであり、今では人工呼吸を止めると数分間で苦しくなる。又、熱も出ると聞いては誠に重体と思わざるを得ない。

持続点滴のためか、下肢に血栓が出来たらしいというので足を見せて貰った。両膝関節、足関節ともに運動不良になっている。奥さんに尖足防止を少しはやってみたらと進言する。

病室は日当たりがよく、汗が出るほど。中野は気を遣ってくれて、奥さんに窓を明けさせる。これほど重篤の身体でも人のことを心配してくれる。

我々の年令で五ヶ月も寝たきりになればボケが来る事が多い。私ならばとくに廃人になっているものと思うが、中野君は少しも変っていない。

こんなしっかりしている中野君が再起するのが困難というのは、進歩したなどと言っている俺達医者共の無力さを知らされる。

奥さんがどれほど悲しいかと思うとお見舞の言葉も出来ない。

一時間くらいも病室にいたらうか、別れが辛かったが病室を出る。

駅に近い食堂に入る。佐伯、西山は前に来た事があるという。

飲むと話がはずむ。昔の話。今の話。

佐伯は昔、あだ名付けの名手。あだ名は相手の人格を無視するようなものは好ましくないが、彼のつけるあだ名はそれがなく秀作が多い。

西山は今では神奈川の地歴に詳しく、神奈川の事なら何でも知っている。高等商船受験でツベルクリン反応が強陽性で失格しそうだった話は意外だった。

中学時代の連中はつい話が弾む。四時半頃、店を出る。

帰宅は六時過ぎ。



東京支部の役員の皆さん 平成7年3月現在（順不動）



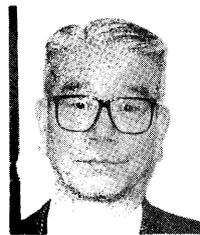
鶴巻事務局次長
(高10)



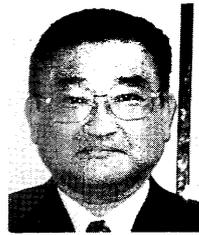
大橋常任幹事
(高10)



鈴木幹事
(女25)



佐伯支部長
(中27)



田代幹事
(高11)



石黒常任幹事
(高09)



伊藤組織副委員長
(中33)



佐久間常任幹事
(高06)



芳賀監事
(中33)



塚田監事
(高08)



武藤常任幹事
(中26)



堀 幹事
(中24)



鈴木常任幹事
(高04)



高久幹事
(中34)



松田幹事
(高02)



八木幹事
(高07)



真水幹事
(高10)



岡本組織副委員長
(女25)



小島幹事
(高10)



関 幹事
(高03)



渡辺幹事
(高12)



近藤幹事
(高12)



中島幹事
(高12)



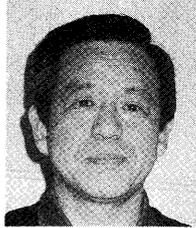
木村幹事
(高08)



山西幹事
(高08)



中村事務局長
(中22)



沢出常任幹事
(高06)



深見常任幹事
(高07)



斉藤常任幹事
(中33)



篠川幹事
(高02)



山下幹事
(高10)



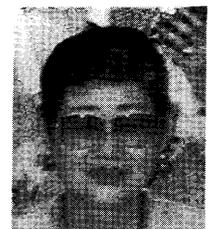
渡辺幹事
(高03)



青木幹事
(高02)



笠原幹事
(高18)



小林幹事
(女25)



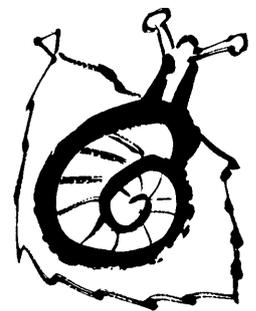
広田幹事
(高05)



徳永幹事
(高12)



佐藤幹事
(女25)



ちょっと、いい話 (1)

支部幹事の岡本和子さん(女25回卒 ㈱サンシャルレ社長)が、1月17日発生した阪神大震災の被災者にいち早く、肌着など数十点、価格にして20万円相当送られました。
女性ならではの心遣いです。

ちょっと、いい話 (2)

本年3月1日発行の本部会報“松城”第12号に掲載された佐伯支部長の新卒業生に贈る言葉“誠実、情熱、勇気”の三信条の語り口は、きわめて印象的でした。



平成七年度赤山会春季例会

桜の蕾も脹らみ春の日差しが眩しいほどの晴天に恵まれた4月1日（土）市ヶ谷の私学会館で午後1時から赤山会春期例会が開催された。今回の会合では旧制中学、校章旗が新調されて、その披露もある集いとあって27名の参加者で賑わった。宴もたけなわの頃、渡辺文男氏（12回）が大切に保存しておられる思い出のテープのご披露があったが、それは「佐渡おけさ」の歌い手としては余りにも有名な村田文蔵の歌を直接テープにとられたものであった。佐渡おけさを全国的に広め観光地佐渡の地位を不動にした功労者のひとりといわれるだけあって、美声と名調子には新たな感動を覚えた。文蔵から直接習った渡辺氏の声も聞かせていただいたが71才当時のテープ

とは思えないほどの若々しきで正調のおけさ節は心に深く染み入るものがあった。そんな雰囲気の中かで市川（17回）横松（20回）芳原（24回）の皆様が次から次とご自慢の喉を披露され万雷の拍手が送られた。また佐伯支部長からは、来たる6月3日に予定されている同窓会東京支部大会の準備に追われている支部役員の活動報告と、今三ご出席の皆様も挙って参加して頂くよう要望があり、全員拍手で応えていたのは、何よりも心強い限りであった。3時望が足りないほどの感じで過ぎたが、次三ご再会を楽しみにして、午後4時散会となった。（26回 武藤 記）



**愛が実ったら
銀座の「結婚館AZ」へ、
ベストの結婚式場が
みつかります。**

豊富な結婚式場の情報をそろえ、ブライダルのベテランプランナーがお二人の夢を素敵な形につくりあげるお手伝いをいたします。



結婚館AZ 銀座店 TEL.03-3564-4122
〒104 東京都中央区銀座1-8-20 片桐ビル2F



スタイル・予算・式場・人数・料理など、ご希望にかなったウェディングプランを、ご案内致します。

ホテル
専門式場
公共式場

レストラン
ウェディング

海外挙式

株式会社アズ ネットワーク 代表取締役社長 山崎 輝雄（第8回） 監査役 佐藤 匡秀（第8回）
TEL.03-3564-4121 FAX.03-3564-4123

結婚式場のAからZまで、ご相談・ご予約はすべて無料。



同窓会各支部長さんのお名前と住所をお知らせします。

(平成7年4月現在)

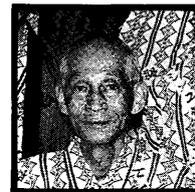
- | | |
|---|--|
| <p>1. 新潟支部
〒950-21 新潟市松海が丘1-6-18
佐野 宏 (中20) Tel 025-043-3187</p> <p>2. 新津支部
〒956 新津市大字子成場707
片岡 一郎 (中19) Tel 0250-23-3211</p> <p>3. 五泉支部
〒959-16 五泉市能代甲198
石塚 達也 (中32) Tel 0250-42-2768</p> | <p>4. 津川支部
〒959-43 東蒲原郡鹿瀬町日出谷乙1934
角田 忠男 (中30) Tel 02549-7-2420</p> <p>5. 村松支部
〒959-17 中蒲原郡村松町上根木町2661
貝瀬 弘 (中28) Tel 0250-58-6052</p> <p>6. 東京支部
〒134 江戸川区清新町1-1-2-503
佐伯 益一 (中27) Tel 03-3688-5824</p> |
|---|--|

事務局は本紙巻末に記載

訃報

元、東京支部幹事の中野 博氏(旧中7回卒)が5月11日、午後2時15分、肺炎のため死去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。

告別式は5月12日でした。享年73。



編集後記

「臥龍が丘は緑なり」19号をお届けします。
皆様から、ご寄稿、お便り、写真等ご投稿いただき、また広告掲載にもご協力賜りありがとうございました。
戦後50年目にあたる今年は、暗いニュースが続いています。阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、急激な円高と株価急落、東京の二つの信用組合の融資金回収不能による経営破綻、警察庁長官銃撃事件、都営交通やタクシーなど公共料金の値上げ、オーム真理教関連ニュース。そして統一地方選挙は予想通り低い投票率でした。
1月17日午前5時46分頃、近畿地方を中心に大地震が発生。震源地は淡路島北端付近でマグニチュード7.2を記録

した直下型地震でした。

阪神間や淡路島で5千500人を越す死者を数え、建造物、鉄道の損傷、高速道路の陥没など交通網は完全にマヒ状態となり、家屋の倒壊、埋立地の液状化、各地で火災が発生。電気、ガス、水道、電話なども各地で寸断され生活に大打撃を与え、一時は30万人が避難所生活をされた戦後最大級の大惨事となりました。新幹線もようやく開通し、災害の復旧も迅速に進んでいるようです。

地震で被災された方々に謹んでお見舞申しあげます。次号発行について係では皆様からの、ご寄稿、お便り等をお待ちしております。400時詰原稿用紙4枚以内の原稿を事務局宛お送り下さいますよう、よろしく願いいたします。
(広報部 沢出)

村松高校同窓会東京支部の略称を

M.D.T. と決めました。
ご愛用下さい。

平成7年6月 第19号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部
広報部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24 (榊内)
TEL 03-3445-6501

郵便振替 00120-9-136445

校 歌

旧県立村松中学校校歌

1. 塵の巷を遠ざけて
雲たちまよう白山の
麓に立てる松の群
見よ凌霄の気を含む
2. 緑色濃き木陰には
夏も尽せぬ泉あり
湧きて流れて末終に
汪洋として海に入る
3. 落葉をくぐる流れにも
巖石砕く力あり
清きは水の姿にて
強きは誰が心ぞや
4. 万緑の気地に潜み
風雪野山に荒るる時
色さえ変えぬ常盤樹の
高きは誰が操ぞや
5. それ英雄も人傑も
人の子吾等がたぐいなり
嗚呼松城の健男児
奮いて立つべし諸共に
嗚呼松城の健男子
勇みて立つべし諸共に

旧村松高等女学校校歌

1. 愛宕の山のむら松の
みどりの色の常盤なる
操を胸に日の本の
をみな徳を磨かばや
2. 心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雲にもまさる清さもて
正しき道を進まばや
3. 其の名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂うごと
気高き姿保たばや

現 校 歌

- 相馬御風 作詞
中山晋平 作曲
1. 普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしまめ若松の
ときわの志操いや高く
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり
 2. 見よ質実に清純に
進取の生氣湧き溢れ
文化の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我らを進ましむ
努めなんいざもろともに

応 援 歌

(一)

1. 緑濃き臥龍ヶ丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高なる血潮
たたえつつ春の日めぐる
2. いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利

(二)

1. 臥龍原頭幾屋霜
切磋琢磨の功を経て
花くれないの香に匂う
誉れは高き松城の
健児が胸に血やおどる
2. 我等がえらぶますらおの
誉れは海の湧くがごと
望みは雲のゆくがごと
月の桂をなゆずりそ
栄えある名をぞとこしえに

(三)

1. 松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいせし我が勇士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり
2. 臥龍原頭精気あり
義憤に満ちし丈夫が
驕奢の潮せきとめて
逸惰の眠り打ち破り
高うつ胸の雄叫びに
進めとなるを如何にせん
3. 今壮快の晴れ戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり

三

こころざしを はたして
いつの日にか 帰らん
山はあおき ふるさと
水は清き ふるさと

二

いかにいます 父 母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

一

うさぎ追ひし かの山
小ぶなつりし かの川
夢はいまも めぐりて
忘れがたき ふるさと

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一

ふるさと
(文部省唱歌)

